



学校教育目標

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>

かみやま



～ Enjoy! autumn (fall) (秋を楽しむ) ～

校長 佐藤 康晴

いつも子どもたちを優しく見守ってくれている空が、高く見える様になり、学校を吹き渡る風も、夏の名残のような暑い風から、時折、涼しげな澄み切った秋の風に姿を変える日が増えてきました。校庭を取り巻く樹木も、少しずつその葉を染めだして、ゆっくりとですが、季節は秋に変わろうとしています。この前、学校に通ってくる途中で、沢山のどんぐりが落ちているのを見つけました。少し大きめのどんぐりで、すぐに「マテバシイ」だと分かりました。どんぐりを見ていて、そろそろ子どもたちが「秋探し」の学習を始める頃だな、と思い出しました。楽しみながら色取り取りの葉っぱや木の実を集め、沢山の驚きと発見も袋に詰めて活動し学ぶ子どもたちの姿が目に見え、思わずにっこりしてしまいました。秋の樹木を代表する木に、イチヨウの木があります。イチヨウは、世界最古の「生きた化石」と呼ばれ、一科一種の雌雄異株の落葉性大高木で、高さ30メートル、直径2メートルにも成長するそうです。地球上に現れたのは、約3億7000万年前で、世界中に広まったのは約2億1300万年前から1億4500万年前頃。恐竜が栄えていた中生代ジュラ紀に、恐竜が種子を食べ、消化されない種が大地に蒔かれ繁茂していった、と考えられているそうです。しかし、その後1万年前まで続いた長い氷河期によって、冷たい厳しい気候の変化に耐えられずに、他の植物と共に全滅の危機に瀕することになりました。この時、殆どの植物は絶滅したのですが、イチヨウの種は、氷河期にも比較的温暖だった中国大陸で一種だけ生き延び、ひっそりと生きてきたようです。中国では、「宋」(960～1279)と呼ばれた時代に、イチヨウの木や葉から、薬用や食用としての価値が発見され、広く栽培される様になりました。日本へは、鎌倉時代頃に大陸から海を渡ってきた僧侶等によって、薬や食用として持ち込まれ、各地に広がっていったのではないかという説があります。しかし、自生していたイチヨウの木はすでに絶滅したと考えられ、今私たちが見かけるイチヨウの木は、人によって植樹され続けているものだそうです。ダーウインは、氷河期に殆どの植物が絶滅した中で、イチヨウだけが現存していることから、イチヨウは『生きた化石だ』と言ったそうです。普段当たり前の様に眺めている木にも、凄い歴史があるのですね。

今月もまた、保護者の皆様並びに地域の皆様には、これまでと同様に、本校の教育活動へのご理解とご支援・ご協力をいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。